

第1学年 国語科学習指導案

日時 令和3年10月7日(木) 5校時

学級

指導者

1 単元名

考えの筋道を説明しよう

教材名 『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ

2 内容のまとめ

第1学年

〔知識及び技能〕(2)情報の扱い方に関する事項

〔思考力、判断力、表現力〕「C 読むこと」精査・解釈

3 単元の目標

- (1) 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。〔知識及び技能〕(2)ア
- (2) 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ア
- (3) 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ
- (4) 言葉が持つ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

4 単元について

(1) 生徒観

(略)

(2) 教材観

本教材は、仮説検証型の説明文であり、実験によって得た事実を基に仮説の妥当性を主張するという論の展開が筆者の主張に説得力を与えている。説得力を高めるために、具体的な数値を根拠として示したり、図表を示したりする工夫がある。また、検証1だけでは仮説が十分に検証されたとはいえないと考え、考えうる反論を示したうえで、さらに検証を重ねる構成となっている。筆者の考えの道筋を考える教材として適している。

(3) 指導観

まずは文章の内容面をおさえ、各段落の中心となる文をとらえることで、全体の要旨を確認する。次に生徒たちにとっては初めての仮説検証型の説明文であるので、文章の構成の面から文章の流れを確認していきたい。具体的には、本論の仮説の検証1と仮説の検証2を比較することで、10段落の役割と、仮説の検証2を書いた筆者の意図が見えてくると考える。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①原因と結果、意見と根拠の結びつきなど情報と情報の関係について理解している。(2)ア)	① 「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見の関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) ② 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ)	① 粘り強く、文章の構成や展開を考え、学習課題に沿いながら、根拠をもって筆者の工夫を説明しようとしている。

6 指導と評価の計画（6時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1	○単元を見通し「つけたい力」を確認する。 ○『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」を通読し、初発の感想を持つ。 ○簡単に内容の確認をし、初読の感想を書く。 ・内容や、論の進め方について、現在の自分の考えをまとめる。	・説得力を持たせるための論の進め方の工夫を、自分の言葉で説明する力をつけるという目的をおさえる。	
2 3	○各段落の中心文を考え、線を引く。 ・①～③段落の中心文については、全体で確認する。 ・④、⑤から、「事実」「考え」の読みわけをしながら中心となる文に線を引く。 ・検証1について、接続詞などに着目する。 ・検証2は、検証1の考え方を参考にする。 ○全体の内容を、穴埋め問題で確認する。	・結論は、「まとめ、考察、次の課題」という展開であることをおさえる。筆者の研究者としての姿勢について意識させる。	【主体的】 ① [学習シート] 接続詞やキーワードをもとに各段落の中心的な文を捉え、要旨を把握している。 【知識・技能】 ① [学習シート] 各段落の中心文が、意見なのか考えなのか理解している。
4	○文章の構成を捉え、役割によってまとまりにわけける。 ・グループごとに段落構成図を書く。 ・仮説の検証1、仮説の検証2の展開をおさえる。	・序論、本論（仮説、仮説の検証1、検証2、）結論という流れを確認する。 ・仮説の検証1、検証2は「研究の目的、方法、結果、考察、(問題点)」という順番で展開されていることをおさえる。	【思・判・表】 ① [学習シート] 文章の構成について、接続詞や文章内容などを根拠として示しながら自分の考えを説明している。

<p>5 本 時</p>	<p>○結論までの筋道を考える。 ・仮説の検証1と仮説の検証2を比較して読む。 ・検証1に続く10段落の役割を考え、10段落があることで検証2に論が展開していくことを捉える。 ・検証2が、予想されうる反論にこたえるために、さらに検証を重ねたものであることを捉える。 ○結論までの論の進め方を説明する文を書く。</p>	<p>・10段落と検証2があることの意図を考え、結論に説得力を与えるための論の流れをおさえる。</p>	<p>【思・判・表】② [学習シート] 10段落の役割を考え、仮説の検証2があることの良さを説明している。</p>
<p>6</p>	<p>○結論に説得力をもたせるため、筆者が文章構成上どのような工夫をしているかを説明する文章を書き、単元のまとめをする。</p>	<p>・序論から結論までの構成を捉え、筆者がしている文章構成上の工夫を説明するレポートを書く。</p>	<p>【思・判・表】② 主張に説得力を与えるための文章構成であることを説明している。 【主体的】② 粘り強く構成や展開を考え、根拠をもって筆者の工夫を説明しようとしている。</p>

7 本時の指導（5時間目／全6時間）

(1) 目標 文章の構成の面から、仮説の検証が二つあることの意味を考えることができる。

(2) 展開

段階	学習活動	○指導上の留意点（★評価）
<p>導入</p> <p>5分</p>	<p>1 筆者が最も伝えたいこと（主張）がどこにあるのか確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートをもとに、前時の内容を想起する。 ・⑯段落、⑰段落の筆者の主張部分をおさえる。 <p>学習課題 筆者は、自分の主張を伝えるために、どのような文章の構成にしているのだろうか。</p> <p>2 本論はどのような構成になっているのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで短時間交流したのち、学習シートにまとめる。 →なぜ仮説の検証は二つも必要なのか？ 	<p>○構成とは「話の順番」であることを確認する。</p>
<p>展開</p> <p>35分</p>	<p>3 仮説の検証1、検証2を比較して共通点、相違点を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4人グループで話合う ・段落の役割、接続詞などの語句に着目する。 →検証1には⑩段落という「問題点への指摘」があるが、検証2にはなく、そのまま結論に繋がっていくという相違点を捉える。 <p>4 ⑩段落と検証2がある理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、⑩段落の役割を4人グループでの話合う ・次に、話し合った内容を基に、検証2がある理由を考える。 <p>「仮説の検証1だけでは、他の可能性が考えられる」 (⑩段落 もしかしたら～) 「仮説の検証1だけでは、仮説が正しいと言い切れないから、さらに実験をしている」 (⑩段落 十分に主張できるでしょうか)</p> <p>5 説得力をもたせるための筆者の工夫を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮説と結論までに、検証1と検証2があることを確認する。 ・検証1だけでは不十分だと筆者が考えたことを確認する。 <p>・書き出しは「検証1だけでは」とする。 ・⑩段落の役割を説明する。 ・仮説の検証2があることのよさを、説明する。</p>	<p>○⑥目的、⑦方法、⑧結果、⑨考察 ⑩目的、⑪方法、⑫結果、⑬考察 という文章の構成が共通している。 検証1にだけ⑩段落「問題点への指摘」があることに着目させる。</p> <p>○⑩段落で反論を予測し、仮説の検証2に内容が展開することを捉える。「反論」という言葉が出なければ、似たような内容が出たときに、「反論」という言葉でおさえることができるように説明を加える。</p> <p>★【思・判・表】②〔学習シート〕 ⑩段落の役割を考え、検証2があることの良さを説明している。</p> <p>＜手立て1＞ 生徒が文章の構成を理解し、自分の言葉で説明することできるようにするため、説明の際の3つの視点を示す。</p>
<p>終末</p> <p>10分</p>	<p>6 全体で考えの交流</p> <p>・⑩段落の役割は、「予想される反論」や「他の可能性」を示すこと。 ・検証1だけでは、証明には不十分だが、検証2があることで仮説が立証されたといえる。</p> <p>7 振り返り・次時の予告</p> <p>→次回、序論から結論までの全体の構成を自力で考え、筆者の工夫を説明できそうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今の時点で理解していることと理解できていないことを整理して振り返りにまとめる。 ・自らの理解の状況を振り返り、次時の学習への見通しをもつ。 	<p>＜手立て2＞ 振り返りシートに、①何ができるようになったか。②学習方法はどうだったのか。を記入させる。</p>